

原植物は植物の霊的な原像である。

それは《四大が織りなす風土》を通して、

様々な種として地上に姿を現わす。



A5変型／フランス装 本文128頁  
定価2750円（本体価格2500円＋税）  
ISBN978-4-903865-55-3

丹羽敏雄 Toshio Niwa

京都大学理学部において数学を専攻。大学時代、ゲーテに出会い大きな影響を受ける。30代半ばシュタイナーの人智学に出会う。数学の研究・教育の傍ら、オイリュトミーに熱中。人智学をドイツ、イギリスなどで学ぶ。現在、ゲーテ・シュタイナー的科学、バイオグラフィー・ワーク、占星学、カバラを研究。バイオグラフィー・ワークス・ジュピター会員。理学博士、津田塾大学名誉教授。人智学関連著書に『やさしい占星術』、『星々と木々』、『シュタイナーの老年学』、『百合と薔薇』、『沈黙のコスモロジー』、『シュタイナーの人生学』他。訳書に『境域に立つ I・II』、『植物への新しいまなざし』、『エーテルと生命力』、『魂の救済』、『アントロポゾフィーの礎』、『人間と大地における惑星の作用と生命プロセス』シュタイナー最晩年のカルマ論講演邦訳「パリ講演」など

表紙画：丹羽敏雄

# 四大が織りなす風土としての 植物と人間

丹羽敏雄 著

そもそも大いなる自然のなかには

人間以外にいったい何があるのでしょうか。本当は何もないのです。

…地球外の環境に向かって伸びていく植物相との間の相互作用に基づくもの、これらは嗅覚知覚そのものの中で、いわば内面化される…。

\*

イネ科はいわゆる風媒花です。

花粉は、風に乗って雄蕊から光と熱に満たされた空気中にまき散られます、言わば宇宙的なアストラルと出会います。そして雌蕊の子房の中に受け入れられ、受精に至ります。

\*

特定の植物から得ることができる薬剤は、

人間有機体の全体に等しく作用するのではなく、

——人間の“内なる風土”と呼び得る——

あれこれの有機的領域の上に選択的に作用します。

つまり、その薬草が効果を発揮するのは、薬草の育つ風土、言いかえると、薬草自身が持つ内的な風土と、それが処方される“人間の内なる(あるべき)風土”が類似しているときなのです。

(本文より)

人間の内面こそが、

事物の理念的、内的なものが明らかになる舞台である。

## CONTENTS

I はじめに

II 四大：四つのエレメント・エーテル・物理力の三つ組

III 四大と人間の魂

IV 風土と人類の文明・文化

V 三原理と三分節について

VI 感覚器官を通して植物と人間の間の類似性を考える

VII 風土と植物と人間

あとがき

株式会社 涼風書林

〒152-0004 東京都目黒区鷹番 1-14-16

Tel/Fax 03-3710-5160

URL : <http://www.kirisutoshakyodotai.org/ryofu.html>

E-Mail : [ryofu@kirisutoshakyodotai.org](mailto:ryofu@kirisutoshakyodotai.org)

涼風スペース : <http://ryofu-shorin.jimdo.com>

郵便振替口座 : 00180-1-356521